真・恋姫無双～白夜叉大乱～

マルボーロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
真・恋姫無双～白夜叉大乱～

【Ｎコード】
Ｎ６５０２Ｍ

【作者名】
マルボーロ

【あらすじ】
坂田銀時。かつて白夜叉と恐れられた伝説の侍。現在は万事屋を営み
日々糖尿病とチャランポランに生きる毎日。「糖尿病じゃないから、まだ
そうじゃないから」
そんなある日銀時は偶然警備の仕事に来ていた美術館で鏡の光に呑みこまれてしまう。
今！世界を、時を超え伝説の鬼神が戦場をかけるかもしれないで

もないかもしれない、たぶん！「なんでグダグダ！？」

すいません、誤って短編で出してしまいました。
本当は連載小説です。またもう一度連載小説で書き直すので、そちらを見てください。

侍の国。
僕らの国がそう呼ばれていたのも昔の――――

「オイィィイイ！！一体いつの解説しようとしてんだ作者ァァアア！！分かってるるから！この小説読んでるみんなは、もうそんな設定聞きあきてるからぁぁぁぁぁぁぁ！！」
「うわっ！びっくりした～。どうしたんです？銀さんいきなり大声出したりして」
「発情期アルか？発情期なのかコノヤロー」
「神楽ちゃん、それ俺のセリフゥゥウウウ！！」

はい、天パがお見苦しい所をお見せいたしました「おい作者、てめぇ後で覚えてろよ！銀魂のキャラクターは原作者もぶっ飛ばせんだからな！」……すんません。

……ええっと、コホン。気を取り直して、ここは現在の天人に支配された地球の中心地とも呼べる都市、江戸の一角にある、とある美術館。皆さんお解りかと思うが、最初にいきなりワタクシ作者の解説を妨害してきた天pぶべらっ！！ちょ！すいません！ちょ、まって！やる！やりますから鼻フックだけは！！

……はぁ、はぁ。……ええっと、どこまでいった？……そうそう、最初にワタクシ豚のクソつまらない解説にツッコミを入れてくださった我らが主人公、銀色の日本刀のように美しい輝きを放つ髪をなびかせ、黒の服と雲柄の着流しをハイセンスに着こなした我らが坂田銀時様率いる、伝家のツッコミ職人、志村新八宇宙最強の戦闘民族・夜兎の末裔にしてチャイナな美少女、神楽ちゃんは、

今夜この美術館の警備をするためにわざわざ出向いてこられたので候(そうろう)。

……これでよろしいでしょうか？え？口調が気持ち悪い？しばらく話かけるな……。はははは！ホントすいませんねぇぇぇぇぇぇ！！（泣）

「あれ？銀さん、どこ行ってたんですか？」
「あ～？ちょっと肥え豚を調教しに」
「ちょっとぉぉぉぉぉ！！あんた一体、ホントどこ行ってきたんですかぁぁぁぁぁ！！！」
「発情期アルか？発情期なのかコノヤロー」

……はい、おふざけはこの位にしてそろそろ話を進めていこうと思います。え？作者は大丈夫なのかって？ははは、ナンノコトヤラ？

「ちょっとぉぉぉぉぉぉ！！なんか作者がおかしいんですけど！！なんか必死で過去をぬぐい去ろうとしてるんですけどぉぉぉぉぉぉ！！」

「あ～ったく、うっせ～な～。そんなもんほっときゃいいんだよ～。どうせ関係ないから、作者はただ淡々と、俺達の活躍を綴るだけのキーボード打ち機だから、ず～っとカタカタやってるだけだから」

「銀ちゃん！私そんなのよりタマゴ割り機がいいアル！タマゴ割り機買ってきてヨ！」

「神楽ちゃん！？ダメだから！！そんなのとか言っちゃダメだから！！この作品一応作者によって成り立ってるから！グダグダでも一生懸命だから！」

「安心しろ神楽。キーボード打ち機はタマゴ割り機と兼用だ」

「本当アルか！！キャッホォォォオオイ！！」

「作者ぁぁぁぁあああ！！！」

深夜の美術館前にも関わらず、万事屋一行は今日も元気に騒いでいた。「あ、作者もう無視したよ。これ以上関わらない方向で話を進めていく気だよ」……ほっとけ。

「はぁ、全く。……ところで銀さん、なんか今日いつもよりテンション高くないですか？最初の解説へのツッコミだっていつもは僕が入れるところなのに……」
「そういえばそうアル。なんか一瞬、銀ちゃんがダメガネに見えたネ」
「オィィイイイ！！ダメガネってなんだぁぁぁぁあああ！！メガネに罪はねぇだろうがぁぁあああ！！」
「はぁ～？何言ってんの、お前ら？銀さんいつも通りだからね？銀さんはいつも通りＳだからね？銀さんをいつも通りじゃなくさせたら大したもんですからね？」
「いや、何回いつも通り言ってんですか……」
「……やっぱりおかしいアル。具体的に言うと昨日、テレビで『恐怖！美術館に眠る魔の秘宝達！』を見たあたりからおかしいアル」
「……」
「え？なに？その目？なに？違うよ？銀さん、アレだから。別におかしくないから。さっきから言ってるよね？もう～！なんなの！そんなに銀さんをおとし入れたいの？」
「……あれ？なんか銀さんの後ろに」

ズサァァ！

「「……」」
「……いや、アレだからね、ほらアレ。ちょっとピクシーがいたから」
「いや、どんな言い訳ぇぇぇぇぇぇ！！？」
「見苦しいアル。もうネタはあがってんだよ。もうこのネタもやり尽くしてんだよ」
「だぁぁかぁぁらぁぁあああ！！違ぇって言ってんだろうがぁぁあああ！！別に、怖がってねぇしぃぃぃぃ！！夜の美術館なんか、夜の学校と比べたらスライムとミノタウロスだしぃぃぃぃ！！」

「いや、無理しなくていいですから。僕たちは分かってますから、銀さんがこういうの苦手でも、僕たちは銀さんの味方ですから」
「そうアル！銀ちゃんが例え漏らしても、気にせず接するネ！三メートル以内に入らなければ」
「オイィィイイ！！お前ら信じる気ゼロかぁぁぁあ！！いいよ！！もう銀さん一人で言ってやるよ！！誰が好き好んでガキのお守なんかするかってんだ！！」
「あ！ちょっと銀さん！……行っちゃった」
「だれがお守する側だと思ってんだ、あの天パ！」

こうして銀時は新八と神楽の心優しい（？）気づかいも無視して、一人真っ暗な美術館に乗り込んでいったのでした。あれ？これ死亡フラグ？

「ちょっと作者、なに怖いこと言ってんですか？」

そして、二人の出番もここまででした。

「「はぁぁぁぁぁぁあああああ！！！！！？」」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6502m/

真・恋姫無双～白夜叉大乱～

2010年10月10日07時16分発行